一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和 3 年度第 7 回 理事会議事録

令和 3 年 7 月 19 日（月）20:00～22:10

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東　学、大鳥精司、小田剛紀、西良浩一、田中信弘、髙相晶士、
筑田博隆、千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、
長谷川和宏、波呂浩孝、松山幸弘、山田　宏、渡辺雅彦
【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】
松山幸弘理事長が議長となり、開会を宣して議事に入った。

理事長挨拶
各委員会業務が活性化しており、理事会決議の必要な事項も多くあるため、例年理事会のない 8 月も、8 月 23 日（月）に開催するのでよろしくお願いしたいと述べた。

審議・決議事項
1. 前回議事録の確認
松山理事長が、前回議事録について確認を求めた。修正等ある場合は、渡辺理事へ一報することになった。

2. データベース委員会報告より：データベース構築について
2021度から施行されるJSSR-DBレジストリーに向けて、データクレンジング業務、登録施設管理のために、新規人材が必要となると説明した。浜松医大に常駐し、病院の規程の時給で月120時間勤務してもらう予定である。この人材の新規雇用について一同検討の結果承認した。またJSSR-DB作成の業務は年を追うごとに業務が増えるため、雇用者の人数や業務時間とそれに伴う費用の増加について資料を用いて具体的に説明した。

3. その他
・社保委員会でヘルニコアについてのプロジェクトを立ち上げる件について
社保委員会では、ヘルニコアの技術料が低いため、厚労省医療課へその引き上げを要望

してきたが、コンドリアーゼ髄核融解術と外科治療の費用対効果を比較した論文が無い点をいつも指摘される。そこで、以下のようなプロジェクト研究を行い論文化したいと提案した。

基本設定：
費用対効果評価のため QOL 項目・再治療の必要性、治療費等の 3 年程度の追跡
研究デザイン（案）：
治験データと外科治療患者の後ろ向きデータ（もしくは前向き）の比較
　　分析群　コンドリアーゼ治験患者 82 例（既存のデータを使用）
　　対照群　外科治療群患者 100 例（協力施設 5 施設程度で前向き or 後ろ向き）

一同検討の結果、以上のプロジェクト研究実施を承認し、その予算案を社保委員会から提出してもらうことになった。

・会費用の郵便振替口座変更の件
事務局鈴木めぐみ氏が、現在のJSSRの会費収集の方法等について説明した。
現在JSSRの会費収集の方法は、クレジットカード払い（振込手数料＝カード決済手数料は学会負担）と郵便振替口座への振込（振込手数料は会員が負担）の2種類である。現状では半数がクレジットカード決済、残りの約半数が郵便振替である。
JSSRが使用している郵便振替口座はMTサービスの口座という特殊なものであり、今までこの口座を使用することは無料であったが、2022年2月から月額約3万円になる。MTサービスは前事務局から引き継いだものであるが、完全に時代遅れとなっており、この口座を使い続けるメリットはない。この口座の解約と通常の郵便振替（利用料は無料）への変更を一同承認した。
また、「半数がすでにクレジットカードを利用していること」から、2月に郵送している郵便振替用紙の半数（クレジットカード利用者分）は郵送が無駄である。1月郵送予定の「理事長からの新年のあいさつ（+各種委員会からのお知らせ）」に、次年度会費の請求をマイページ内で始めたのでこれを利用して支払いしてほしいこと、ならびに従来の郵便振替用紙の送付を希望する場合は、6月に送付するのでそのときに支払いをお願いしたいことなどを明記すれば、郵便振替用紙の郵送はおそらく半数で済む。この方法への変更を一同承認した。
補足として、郵便振替は振込手数料が会員負担であるが、これが来年1月から1.5倍ほどになることや、6月は1月のお知らせ以降未納となっている人へ郵便振替用紙を発送するが、再度10月にも未納の人へは郵便振替用紙を発送することになると説明した。
松山理事長が、なるべく会員にマイページを使っていただく方向で進めていくことが、これからのDB登録等の精度にもつながっていくので、支払い・変更等も基本はマ

イページを利用してもらい、メールアドレスの登録も推進して、学会業務の基礎となる「会員名簿」を整備していきたいと意見を述べた。

2. 審議・報告事項

1. 社会保険等システム検討委員会

サージフロー・フロシール査定状況のアンケートのうち、査定された 83 例（使用例の 3.0%）の詳細（椎間数別の使用量の最頻値と平均値）とそのデータから想定される使用量の基準が示された。検討事項として以下３点が示され議論された。

- 使用量の基準を決めるべきか、指標にとどめておくべきか
- 使用量の基準を全審会に示すと，基準外がすべて査定される可能性
- 5，8，10ｍｌと使用量を明記すると，必然的に使用するメーカーが決まってしまう問題について

会員へは、適正使用を守る、手術記録に詳細を記載する、申請時に基準数値等を超えてしまったときは理由を記載する、などを周知することになった。

2. 脊椎関連学会連携検討委員会報告

委員会にて実施中のwebアンケートの集まりが200件程度と芳しくないため、前回理事会で承認された一斉メール配信をしたところ、数日で回答数が1000件を超えたと報告した。月末にもう１度一斉メールし、可能な限り回答を集めたいと述べた。

3. JSR編集委員会報告

『JSR3号（学術集会抄録号）』については紙媒体での配布は今年が最後だったので、前回理事会でも報告済みの「2023年以降の抄録アプリの製作を依頼する業者」について、7月14日のJSR編集委員会で検討し、現状4社が上がっていると説明した。

①コングレ＝これまでもJSSRで利用してきた「マイスナビ」はコングレの関連会社であるマイスワンが作成しているもので、会員も使い慣れているのと、かなりアップデートされている情報を得ている。

②大村印刷＝日整会（JOA）で同様にアプリ等に伴うコンペを行った際に決定された。JOA内でも相当なディスカッションをしてから決めたとの情報があり、他社の製品に比べ、使いやすさが一番だったとのこと。

③杏林舎＝『JSR』『SSRR』などJSSRの雑誌関係を一括して依頼している業者であるが、独自のアプリを開発しているとのこと。

④日本コンベンションサービス（JCS）＝2023年から現在決まっている限り2年はコンベンションを担当する業者。すでに抄録集アプリを有し、多くの学会で使用実績がある。抄録はコンベンション会社が収集等することから、タイムロスなく社内でアプリへデータを移せるなどのメリットがある。

後日資料がそろい次第、再度JSR編集委員会を招集し、各業者にプレゼンをしてもらい、それぞれのデモ版アプリを委員が使ってみるなどして率直な意見を集め、最終的にはその結果を理事会へ報告し審議いただく予定であると説明した。また最終結果の報告前に、理事会へは逐次進捗報告をすると発言した。

4.国際委員会報告

・Spine Across the Sea について

2 週間前に開催されたが、まだ最終報告が届いていない。

・ASSI-JSSR オンラインシンポジウムについて

8 月 27 日夜に行われる予定で、バナーやリンク先を送ってもらえるように伝えているが、まだ届いていない。届き次第、ＨＰに掲載したいので、広報委員会へ連絡する。

5.専門医制度委員会報告

前回理事会で報告したときには未達であった専門医機構（以下機構）からの回答書であるが、到着したとして内容を開示した。

6.診断評価等基準委員会報告

プロジェクト研究の進行状況を報告した。いずれもコロナ禍の影響もあり滞っているようなので、てこ入れのため、web での委員会開催を予定している。

7.広報委員会報告

前回理事会以降に広報委員会で行ったホームページの更新業務について報告した。

8.指導医制度委員会報告

7月7日の委員会にて、今年度の指導医審査についての方法を決定したと報告した。また、専門医・指導医・脊椎脊髄病医（JOAの資格）の違いがわかりにくいのではないかとの意見があり、ＨＰなどで周知が必要と発言した。松山理事長が、その説明原稿を指導医制度委員会や広報委員会で作成してほしいと指示し、まずは一般国民が迷わないよう、ＨＰに説明を載せることになった。長谷川理事からは、会員の中にもこれらの資格の差がわからない医師が多いため、メールを使って周知してはどうかとの案も出された。

また、指導医の新規・継続の双方の要件となっている脊椎脊髄病医（JOAの資格）は要件から外してはどうかとの意見が委員会内であったことについていくつかの意見が出され、今後も継続して議論していくこととなった。

9. 安全医療推進委員会報告

・安全医療推進委員会が会員あてに行った2件のアンケートについて

5月に行っていた2つのアンケート（レベルエラー＝川口評議員、抗凝固薬＝酒井委員）をどこにどのように公表すべきかについは、まず理事会で集計結果等をプレゼンしてもらい検討することになった。

・用語集の残部について

杏林舎から用語集の残部が約100部あるため、学会誌不要としていた人へもこれから追加発送するかと聞かれている。

以上については、残部数が全国の医学部の数と同じくらいなので、各教室の教授宛に寄贈する方向で杏林舎と検討することになった。

・厚生労働省から「手術器具を介するプリオン病二次感染予防策の遵守について」

プリオン病は、どのような消毒を行ってもなかなか死滅しないが、病院内の手術器具等についてはガイドラインに従った手順で洗浄・滅菌をして用いられている。しかし、業者から貸与される器具については、使う直前に到着して完全な洗浄・滅菌ができないことがある。

松山理事長が、本件についてはJOAから周知される予定があると発言した。ただ、状況をより詳細に把握しておきたいので、安全医療推進委員会のほうで他の病院あるいは業者から貸与される器具についてどのような状況にあるのか調べてほしいと依頼した。

西良理事が、先日JOAの安全医療推進委員会で徳島大の酒井先生に本件の調査を依頼することになった、と報告し、高相理事が、酒井先生はJSSRの安全医療推進委員会の委員でもあるので次回の同委員会で検討したいと発言した。

10. その他の委員会報告

・プロジェクト委員会

山田理事が、プロジェクト研究症例登録進捗報告を行った。現在 6 つのプロジェクト研究が進行しているが、その中で一番古い若尾委員の「頚肩腕症に対する薬物治療の費用対効果（目標登録数：500 症例）」の症例数が目標にまだまだ足りない状況だが、この研究のみ「期限」が区切られておらず、毎月 10 万円程度の人件費が出ていると報告した。松山理事長が、期限は山田理事のほうで指示してほしいと依頼し、山田理事が海渡委員長と検討することとなった。

その他各研究の目標症例数と現在の回収状況が報告され、遅延が見られるところについては、より頻回に督促等を行っていくことになった。

以上

令和 3 年 7 月 19 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長　松山幸弘

監 事　小澤浩司

監 事　小西宏昭